

第三章 そ の 他

第 1 節 参考資料

1 おおつ健康フェスティバル

高齢社会を迎えた今日、健康で生きがいをもって、人生を豊かに自分らしく、明るく暮らすことができる地域社会を実現するため、市民一人ひとりが健康を振り返り、あるいは体験を通して健康づくりを見直すきっかけとなることを目的として、平成3年から実施している。

- (1) 日 時 令和7年10月19日(日)10時～15時
- (2) テーマ のばそう健康寿命ー生き生きと自分らしくー
- (3) 主 催 おおつ健康フェスティバル実行委員会
- (4) 場 所 明日都浜大津
- (5) 内 容
 - 式典、健康シールラリー
 - ステージイベント
 - ・健康トークショー
「夢、実現へのメッセージ」
出演：元バドミントン日本代表 小椋 久美子さん
 - ・大津市健康推進連絡協議会による活動発表「からだの声を聞いてみて」
 - ・大津市保健予防課感染症対策係による活動発表「知って防ごう感染症」
 - ・栗津中学校吹奏楽部による演奏
 - 事業内容
がん予防、骨密度測定、食育啓発、血圧測定、マッサージ体験 など

2 研究及び外部での講演等の報告

【研究報告】

タイトル	第2期大津市自殺対策計画策定に向けて～自殺未遂者支援からみえたこと～
報告学会名	第64回近畿公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 ○中西遼、奥田由子、松浦一葉、田中菜月、大下彩子、山田由香里、井上誠、中村由紀子
<要旨> 自殺対策基本法第13条に基づき、本市では令和2年に第1期自殺対策計画を策定し、令和8年度に終期を迎える。現計画の評価と第2期の方向性を検討するに当たり、自殺未遂者支援事業の事例分析及び庁内ワーキングを実施したので、その結果を報告した。	

タイトル	HIV 陽性者の支援について
報告学会名	第56回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 ○斉田恵津子、吉田未佳、山田由香里、井上誠、中村由紀子
<要旨> エイズは治療の進歩に伴って予後が改善し、感染していない人と同等の暮らしができるようになった。今後はHIV陽性者の高齢化により、医療や介護サービスが必要となることが予測される。大津市の現状を踏まえ、今後のHIV陽性者支援に必要な事について考察した結果を報告した。	

タイトル	大津市「いのちをつなぐ相談員」活動から見えた家族支援 ～10代20代自殺未遂者の保護者支援～
報告学会名	第56回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 ○松浦一葉、奥田由子、田中菜月、中西遼、大下彩子、山田由香里、井上誠、中村由紀子
<要旨> 平成25年度より、専任相談員を配置し救急告示病院と連携した自殺未遂者支援事業「いのちをつなぐ相談員」派遣事業における11年間の経過の中で、10代20代の若者の自殺未遂者95名だけでなく保護者も支援することで、約30%強の未遂者が再企図・再自傷せずに過ごし、必要時に自ら相談できるようになるなど変化があった。保護者支援が10代20代自殺未遂者の援助希求や人生の選択などの行動を起こすことに効果があることを報告した。	

タイトル	大津市保健所南すこやか相談所における事例検討を通じた地区担当保健師の役割と切れ目ない支援について
報告学会名	第56回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健総務課 ○伊藤倫、大西亜花莉、三浦聖子、宮本若葉、平田浩二、片岡聡志、白須 誠義、中村由紀子 母子保健課 藤本 亜由美、佐野 実生、坂口 和代、多賀 尚幸
<要旨> 大津市では令和7年度からこども家庭センターを設置。すこやか相談所がこども家庭センターにおける母子保健機能を担う立場から、児童福祉を含む他機関と連携した2事例を選定し、母子保健課と事例検討を行い、地区担当制における地区担当保健師の役割と母子保健における切れ目ない支援について考察したので報告した。	

タイトル	大津市働く世代のがん対策推進会議における取組について～相談窓口リーフレットの作成～
報告学会名	第 56 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	健康推進課 ○西川幸恵、大泉聡志、木本知子、中江英樹、中村由紀子
<要旨> 令和 5 年度に実施した「事業所におけるがん対策に関する意識調査」において、従業員ががんになった際に事業主が「従業員/事業者が相談できる相談窓口の情報」を市に求めていることが分かった。この調査結果を受けて、大津市働く世代のがん対策推進会議にて、がんに関する相談窓口をまとめたリーフレットを作成したので、その経過について報告した。	

タイトル	直営で実施している特定保健指導の効果と今後の課題について
報告学会名	第 56 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	健康推進課 ○原田真弓、石川典子、西村悠、藤村美来、木本知子、中江英樹、中村由紀子
<要旨> 集団特定健康診査受診後に実施する結果説明会の際に、本市職員である保健師、管理栄養士等が直営で特定保健指導を実施した利用者の最終評価結果や 1 年後の健診結果について調査を行い、特定保健指導の効果と今後の課題について報告した。	

タイトル	大津市における在宅医療・介護連携推進事業（多職種連携）の取組報告
報告学会名	第 56 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	地域医療政策課 ○龍池和隆、友岡昌代、有川幸歩、野田由美子、澤田靖人、中村由紀子
<要旨> 本市では、平成 27 年度から市民が安心して在宅療養や在宅看取りを選択できるよう、多職種ネットワーク構築を目指し、市内 7 つの保健・福祉ブロックごとに、在宅医療・介護連携推進事業を進めているが、事業開始から 10 年が経過し、活動上の課題を踏まえ、令和 7 年度から新たな取組を開始したこと、又、今後の当該事業の方向性について整理したことなどを報告した。	

【講演等報告】

タイトル	・ジャガイモを原因とするソラニン類による疑食中毒事案について ・「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ大会」における宿泊施設の食品衛生対策について ・粘液胞子虫（クドア属）による食中毒疑い事案について
講演会・研修会名	第 45 回生活衛生業務研修会
発表者名	衛生課 青木直也、安田敬子、水田晋介
対象者及び参加人数	大津市及び滋賀県職員 約 30 名
主催者	大津市、滋賀県
<要旨> 食品衛生、衛生営業、水道及び動物愛護にかかわる生活衛生関係職員が相互の研鑽を行い、最新の知見並びに監視指導技術を習得し、職員の知識と資質を向上させ、もって今後の生活衛生行政の進展に寄与することを目的に、業務実績等について報告した。	